

## 文学研究科学学位授与方針

### ■博士課程前期課程

#### 修士（文学）

博士課程前期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力等を下記の通り定める。本課程に2年（4学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身につけていると認め、修士の学位を授与する。

1. 人文学の高度に専門的な日本語および外国語の文献を読み解き、その領域における知的蓄積を分析総合する能力、あるいはフィールドワークを通して的確で客観的な調査を行う技能および、学的世界の中で自らの位置を知る能力。
2. 自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法。
3. 自らの学問的営為や成果を踏まえながら、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力。

#### 修士（教育学）

博士課程前期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力等を下記の通り定める。本課程に2年（4学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身につけていると認め、修士の学位を授与する。

1. 教育学の高度に専門的な日本語および外国語の文献を読み解き、その領域における知的蓄積を分析総合する能力、あるいはフィールドワークを通して的確で客観的な調査を行う技能および、学的世界の中で自らの位置を知る能力。
2. 自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法。
3. 自らの学問的営為や成果を踏まえながら、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力。

#### 修士（比較文明学）

博士課程前期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力等を下記の通り定める。本課程に2年（4学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身につけていると認め、修士の学位を授与する。

1. 比較文明学の高度に専門的な日本語および外国語の文献を読み解き、その領域における知的蓄積を分析総合する能力、あるいはフィールドワークを通して的確で客観的な調査を行う技能および、学的世界の中で自らの位置を知る能力。

2. 自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築能力および表現技法。
3. 自らの学問的営為や成果を踏まえながら、現代社会において出会うであろう多様な事態に対して臨機応変に対応できる柔軟な発想力。

**■博士課程後期課程**

**博士（文学）**

博士課程後期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力等を下記の通り定める。本課程に3年（6学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、博士の学位申請論文を提出して、その審査および最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身につけていると認め、博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については1年（2学期）以上在学すれば足りるものとする。

1. 博士課程前期課程で培った、人文学の研究、調査、思考の方法を十分に使いこなしつつ、高度な知的蓄積についての理解を深め、未知の問題の発掘や、既知の問題に対する新しい接近法・解決法の発見を行い、その結果として、新しい問題群や学問領域を開拓できる高度な研究能力。
2. 自ら切り開いた知見を、それにふさわしい表現スタイルによって、説得的に表現できる能力。
3. 人文学を基盤としつつ、関連する学問領域に対して、広く深く理解しかつ発信できる能力。

**博士（教育学）**

博士課程後期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力等を下記の通り定める。本課程に3年（6学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、博士の学位申請論文を提出して、その審査および最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身につけていると認め、博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については1年（2学期）以上在学すれば足りるものとする。

1. 博士課程前期課程で培った、教育学の研究、調査、思考の方法を十分に使いこなしつつ、高度な知的蓄積についての理解を深め、未知の問題の発掘や、既知の問題に対する新しい接近法・解決法の発見を行い、その結果として、新しい問題群や学問領域を開拓できる高度な研究能力。
2. 自ら切り開いた知見を、それにふさわしい表現スタイルによって、説得的に表現できる能力。
3. 教育学を基盤としつつ、関連する学問領域に対して、広く深く理解しかつ発信できる能力。

**博士（比較文明学）**

博士課程後期課程を修了する者が身につけるべき知識、能力等を下記の通り定める。本課程に3年（6学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、博士の学位申請論文を提出して、その審査および最終試験に合格した者は、これらの知識、能力等を身につけていると認め、博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については1年（2学期）以上在学すれば足りるものとする。

1. 博士課程前期課程で培った、比較文明学の研究、調査、思考の方法を十分に使いこなしつつ、高度な知的蓄積についての理解を深め、未知の問題の発掘や、既知の問題に対する新しい接近法・解決法の発見を行い、その結果として、新しい問題群や学問領域を開拓できる高度な研究能力。
2. 自ら切り開いた知見を、それにふさわしい表現スタイルによって、説得的に表現できる能力。
3. 比較文明学を基盤としつつ、関連する学問領域に対して、広く深く理解しかつ発信できる能力。